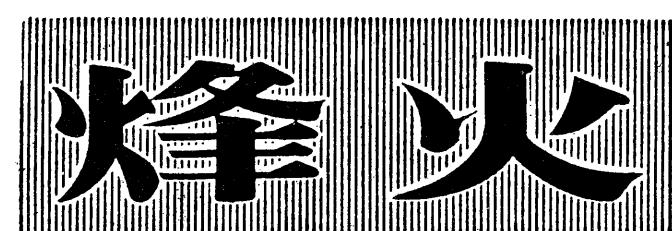


☆帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独一共产党を組織する世界唯一党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

1985年
11月10日
第365号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

反動攻勢に全人民の決起を



うちづく韓国学生の決起

10.31

高揚をつづける韓国

学生運動が一〇月三一日ふたたび爆発した。

三一日午後、ソウル大構内で、死亡した学生の追悼集会をおこなっていたところ、権力はこの集会に参加していた学生を逮捕しようとしたのである。この不当な弾圧に対して学生二千は投石をくりかえし激しい肉弾戦をくりひろげた。その後、一千人の学生は図書館を占拠し、「御用総長退陣」「独裁政権打倒」を訴え徹夜で占拠をつづけている。

「学園安定法」をふみこえて不屈の決起をつづける韓国学生運動に連帯のたたかいを！

第一章 全世界の民族解放闘争に連帶せよ！

長期にわたって帝国主義の苛酷な新植民地主義支配のもとにおかれてきた中米、アフリカ、アジア諸国では、反帝民族解放闘争、反帝民族解放—社会主義革命が燃えあがっている。

進撃する反帝民族解放闘争

米帝の軍事侵略策動と対峙するニカラグアでは革命六周年にあたる七月一九日、FSLN（サンディニスタ民族解放戦線）の旗をうちふる五〇万の労働者人民が首都マナグアのフォンセカ革命広場を埋めつくした。記念演説に立ったオルテガ大統領は、米帝の軍事侵攻と反革命ゲリラに対して全人民の武装でたたかうよう訴えるとともに、労働者・農民の国家建設をあくまでおし進めると宣言した。九月一三日のホンジュラス政府軍との交戦などますます厳しさを増す状況の中で、ニカラグア労働者人民はなお意気高く革命を前進させ続けている。ニカラグアを先頭に、エルサルバドル、グアテマラから遠くチリにいたる中南米諸国では、燎原の炎のごとく反帝民族解放闘争が燃え広がり、プロレタリア社会主義革命との結合が進んでいる。

国際主義かかげ。プロ政治闘争を組織せよ！



8・15公式参拝を弾劾し「中曾根打倒」を叫んでデモをする中国労働者学生(9月18日)

アフリカの最南端、南アフリカでは昨年以来激しい反アパルトヘイト（人種隔離政策）闘争がたたかわれている。ピーター・ボタ大統領はこの闘争の前進に対し、七月二〇日非常事態令を発令し、八月一五日にはアパルトヘイト体制の非妥協的防衛を宣言するとともに、「改革よりも革命を選択する者」に対しては「より強力な措置をとる」と警告した。事実、過去一ヵ月間に約六五〇人の黒人が虐殺されており、非常事態令以降いっそう激しい弾圧がうちおろされている。だがこの残酷な弾圧も、非合法化されているアフリカ人民会議や約二〇〇万人を結集する民主統一戦線を中心とした闘争の嵐をおしとどめることはできない。黒人居住区では暴動があいつぎ、大学生・高校生の授業ボイコットが急速に広まり、黒人労働者が闘争の先頭にたっている。南アフリカのアパルトヘイトは、圧倒的多数の黒人プロレタリアートをひと握りの白人ブルジョアジーの賃金奴隸にしばりつけブルジョアジーの権力を維持するための階級支配の武器であり、同時にアンゴラやモザンビークなど周辺の民族解放闘争のいつたんの勝利をたたかいとった国家に対する反革命の拠点として南アフリカのブルジョアジーとこれを支援する帝国主義に対する階級闘争へと発展している。だからこそ、反アパルトヘイト闘争は、南アフリカのブルジョアジーとこれを支援する帝國主義に対する階級闘争へと発展していくがざるをえないものである。

アジアでは、フィリピンのマルコス独裁政権打倒にむけた闘争が高揚を続けている。マルコスによる一三年前の戒厳令布告記念日の前日にあたる九月二〇日、中部ネグロス島では約一万人のデモ隊が軍・警察と衝突し、双方で二〇人の死者が出た。さらに翌二日にはフィリピン各地で反政府集会が開かれ、首都マニラでは二万人、ネグロス島では三万人がマルコス独裁政権打倒をかかげて激しいデモをくり広げた。反マルコス闘争は独裁政権を支える米日帝国主義に対する反帝民族解放闘争へと発展するとともに、都市の反政府運動とジャングルでの武装闘争を続ける新人民軍一フィリピン共産党との結びつきが強まり、プロレタリア社会主義革命に発展していく可能性を拡大し続いている。

また南朝鮮でも、全斗煥独裁政権による苛

酷な弾圧をはねかえし八月末の新学期とともに厳しくたたかいが続いている。全斗煥政権は今年五月の全学連一三民闘争委によるソウル米文化院占拠闘争をはじめとした光州蜂起五周年闘争の高揚にふるえあがり、学生運動に対するすさまじい報復弾圧にふみだしてきた。六月二九日には、ソウル大、高麗大、延世大など九大学の学生会から六五人を逮捕し、七月一八日には「国家安全法」（最高刑は死刑）で三民闘争委を中心に五六人を逮捕された。さらに七月一九日には、「学園を国家転覆の基地としようとする騒擾は許さない」として「学園安定法」の制定をおこなうと表明した。「学園安定法」の主内容は、①学園騒擾に關係した学生を政府の教育施設に収容し、六ヵ月間にわたって反共教育をおこなう散を命じ、事務室を開鎖する③反国家団体の思想・理念を伝え、教育する行為、それらが表現された文書・図画その他の製作・印刷・保持した者を七年以下の懲役に処す、というものである。まさに南朝鮮反体制運動の先頭を担う学生運動を根本的に破壊しつくそうとする大弾圧である。

「学園安定法」制定策動と並行した弾圧強化に反対し、九月五日には七大学一〇〇〇人の学生が高麗大で集会を開き、そのうち五〇〇人が図書館に籠城し、翌六日には一五〇〇人の結集で「国民大討論会」を開催した。その場には指名手配中の三民闘争委委員長の許仁会氏があらわれて発言に立ち、全身に石油をかぶり権力が介入すれば焼身自殺すると宣言し、すさまじい決意をこめて全斗煥独裁政権との闘争をよびかけた。民主統一民衆運動連合、民主化運動青年連合、キリスト教団体など三九団体による「学園安定法反対闘争全国委」結成、新韓民主党による「学園安定法阻止闘争委」の結成など南朝鮮の労働者人民は、最も戦闘的にたたかたがゆえに一身に権力の弾圧を受けている学生運動を孤立させることなく、ともにたたかおうとしている。南朝鮮における全斗煥独裁政権との闘争は、「反共民主化」の枠を大きくふみこえて、光州蜂起以降の幾多の闘争の経験から、反米（帝）反日（帝）をかかげた反帝民族解放闘争（帝）反日（帝）をかかげた反帝民族解放闘争

へと前進し続けてきた。このたたかいは、「学園安定法」などいかなる弾圧をうけようとも、全斗煥独裁政権を打倒し、米日帝国主義の支配を一掃するまで決してやむことはない。そしてこのたたかいを最後までおし進めようすればするほど、全斗煥独裁政権を打倒していかなる権力を樹立するのか——プロレタリア社会主義革命との結合を必ずや日程にのぼせていくであろう。

平和幻想ふりまく米ソ首脳会談

慢性的な世界資本主義の危機にあえぐ米・日・英・仏・西独などの帝国主義は、このように中南米・アフリカ・アジアなど全世界で反帝民族解放闘争の嵐に直面し、新植民地主義支配を根底から掘り崩され深刻な危機においている。米帝のニカラグア軍事侵攻策動をはじめ、各国帝国主義は安保・NATOなどの侵略反革命軍事同盟を強化し、侵略反革命戦争の準備をひた走っている。

他方ソ連共産党は、一一月に予定されている米ソ首脳会談にむけて戦略核兵器の大削減を中心とする軍縮提案を公表し、世界平和にむけた歴史的会談だと宣伝している。だがこのような会談は、全世界のプロレタリアートの解放にむけた階級闘争には何の意味もない。この会談が成功しようと失敗しようと、各国帝国主義は自己の権益を防衛するため、反帝民族解放闘争、反帝民族解放・社会主義革命の前進を破壊する目的の侵略反革命戦争へとつき進まさるをえないのであり、また核兵器をソ連との軍事対抗のみならず、全世界の階級闘争を威嚇し鎮静化するための武器として保持し続けざるをえないのです。この地上から核戦争を含むいっさいの帝国主義による戦争を根絶する道は、全世界で帝国主義を打倒し、プロレタリア独裁権力を樹立するプロレタリアートの階級闘争だけなのだ。

すべてのたたかうプロレタリアートは、この米ソ首脳会談にいささかの幻想を抱くこともなく、日帝一中曾根の戦争とファシズム準備との闘争のただ中で、全世界の階級闘争に対する国際主義的連帯のたたかいを全力で发展させていかねばならない。

日帝一中曾根の

反動攻勢粉碎せよ！

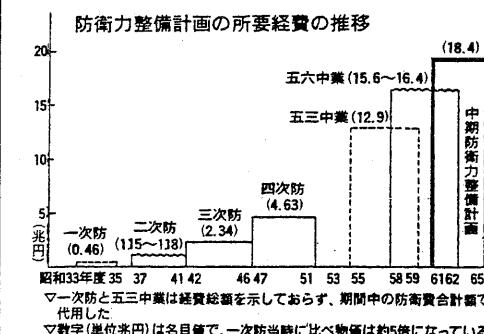
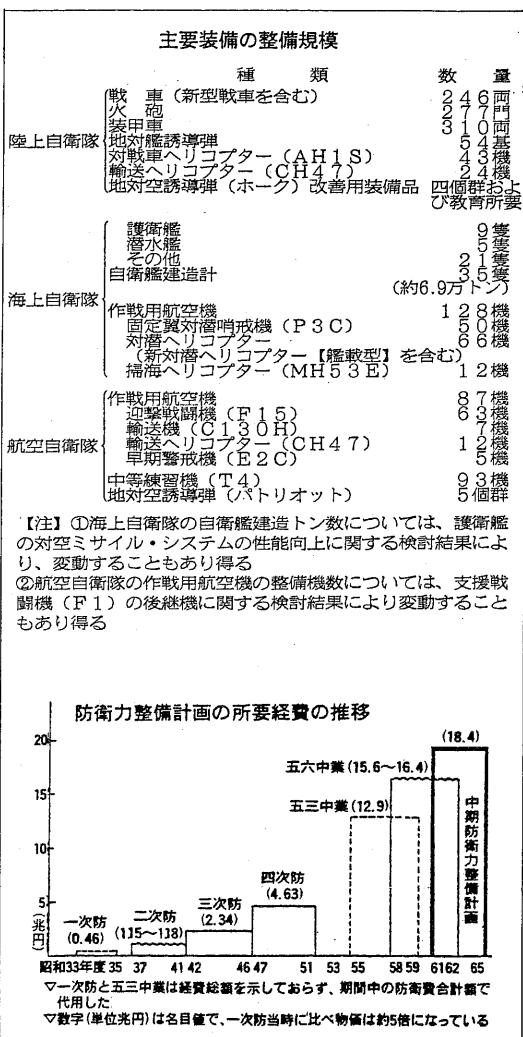
「中期防衛力整備計画」の決定、八六年四月

二九日天皇在位六十年式典、五月東京サミットとつづく攻撃は満身の怒りなしには語れぬものである。

日帝の侵略反革命戦争は不可避

このすさまじい戦争とファシズム準備は、アジア諸国人民の激しい怒りをよびさまして

五年七月二二日行政改革審議会（行政審）答申提出、八月一五日靖国神社公式参拝、九月一八日防衛費GNP一九九〇突破を前提とする



い。戦前、日帝が本格的な中國侵略を開始する転機となつた柳条湖事件の五四周年にあたる九月一八日夕方、北京大学と清華大学の学生約1000人が天安門広場に結集し、「中曾根内閣打倒」「日本軍国主義打倒」をかかげて断固たるデモをおこなつた。これより先、北京大学では二〇〇〇人をこす学生が、学内で集会を開き、大学内には中曾根を批判する百数十枚の壁新聞やポスターが所狭しと張りだされた。壁新聞は叫ぶ。「抗日戦勝利四〇周年の日に、日本の中曾根は深く反省しなかつたばかりか、戦犯の亡靈をまつる靖国神社に参拝した。日本軍国主義はいままさに息を吹きかえしつつある。これは平和に対するあざけりであり、中国人民に対する挑戦である。立ちあがれ、北京大学生よ。日本軍国主義を打倒し、ファシストを断固せん滅せよ」と。これは中国人民のみならず、戦前日帝によつて蹂躪され虐殺され、いま再び日帝の侵略反革命戦争の矛先を向けられているアジア人民の共通する血の叫びなのである。

中曾根政権のかかる急激な戦争とファシズム準備は、中曾根個人の反動性に原因があるのでない。七〇年代なかば以降、資本主義世界をおおつてきた不況の中で日本資本主義もまた深刻な危機にみまわってきた。自国の労働者からの強奪取、収奪とともに日本資本主義（帝国主義）の発展を支えてきたアメリカ・ヨーロッパ市場への膨大な日本製品の輸出や資本投下は、米帝・西欧帝との経済的対立を急激に生みだしてきた。とりわけ、八五年四月から六月の間だけで史上最大の三三〇億ドルの貿易収支赤字を記録した米帝との間は、「日米の経済関係は危機的な状況にある」（九月一〇日政府自民党首脳協議）という段階にいたついている。同時に、いまひとつ日本資本主義（帝国主義）の発展の基盤であつたアジア諸国に対する新植民地主義支配とのもとでの労働者人民からの搾取も、韓国・フィリピンをはじめとした反帝民族解放闘争の前進によつて危機においやられてきた。

日帝の八〇年代戦略は、これからもいつそう深まつていかざるをえない資本主義（帝国主義）の危機に備え、この危機の深まりがブルジョアジーの支配そのものを揺るがす階級

烽火

い。戦前、日帝が本格的な中國侵略を開始する転機となつた柳条湖事件の五四周年にあたる九月一八日夕方、北京大学と清華大学の学生約1000人が天安門広場に結集し、「中曾根内閣打倒」「日本軍国主義打倒」をかかげて断固たるデモをおこなつた。これより先、北京大学では二〇〇〇人をこす学生が、学内で集会を開き、大学内には中曾根を批判する百数十枚の壁新聞やポスターが所狭しと張りだされた。壁新聞は叫ぶ。「抗日戦勝利四〇周年の日に、日本の中曾根は深く反省しなかつたばかりか、戦犯の亡靈をまつる靖国神社に参拝した。日本軍国主義はいままさに息を吹きかえしつつある。これは平和に対するあざけりであり、中国人民に対する挑戦である。立ちあがれ、北京大学生よ。日本軍国主義を打倒し、ファシストを断固せん滅せよ」と。これは中国人民のみならず、戦前日帝によつて蹂躪され虐殺され、いま再び日帝の侵略反革命戦争の矛先を向けられているアジア人民の共通する血の叫びなのである。

中曾根政権のかかる急激な戦争とファシズム準備は、中曾根個人の反動性に原因があるのでない。七〇年代なかば以降、資本主義世界をおおつてきた不況の中で日本資本主義もまた深刻な危機にみまわってきた。自国の労働者からの強奪取、収奪とともに日本資本主義（帝国主義）の発展を支えてきたアメリカ・ヨーロッパ市場への膨大な日本製品の輸出や資本投下は、米帝・西欧帝との経済的対立を急激に生みだしてきた。とりわけ、八五年四月から六月の間だけで史上最大の三三〇億ドルの貿易収支赤字を記録した米帝との間は、「日米の経済関係は危機的な状況にある」（九月一〇日政府自民党首脳協議）という段階にいたつっている。同時に、いまひとつ日本資本主義（帝国主義）の発展の基盤であつたアジア諸国に対する新植民地主義支配とのもとでの労働者人民からの搾取も、韓国・

フィリピンをはじめとした反帝民族解放闘争の前進によつて危機においやられてきた。

的激動を生みださぬようには階級闘争を未然に解体・鎮圧していくことにある。

それには第一に、アメリカ帝国主義の世界戦略と結合して、國際帝国主義としての地位を強化していくことである。ますます激しく築いていくとするものである。

第二には、東アジアを中心にして、中米やアフリカなど全世界に新植民地主義支配をはじめぐらせていくことである。そして自己の権益がこれらの諸国の労働者人民のたたかいによって脅かされそうになつたときには、いつでも侵略反革命戦争を発動しうる準備をおこなうことである。

第三には、国内における戦後統治形態を再編・転換し、ファシズムを準備していくことである。

「戦後政治の総決算」を唱えて登場した中曾根政権は、このような日帝ブルジョアジー全体の利益を代表して、次の戦争とファシズムの時代への過渡期をきりひらいでいることとしているのである。

日帝一中曾根政権の今秋から来春にかけた攻撃の焦点は、第一に軍事費 GNP 1% 枠を撤廃し際限のない軍備増強と侵略反革命軍事同盟の強化をおし進めることである。

軍事費を GNP (国民総生産) の 1% 以内とするといふいわゆる「1% 枠」は、軍備増大に対する労働者人民の批判をかわすために設定されたものであつて、何ら軍事費の上限を量的に定めたものではなかつた。事実、GNP の増大とともに「1% 枠」そのもののも増大するばかりか、日帝は八一年以降超緊縮財政の名のもとに福祉教育予算が軒なみ切り捨てられる状況のなかで、GNP 1% 以内なら許されるとばかりに毎年軍事費突出の予算を組み急速な軍備増強をすすめてきた。

しかし、侵略反革命戦争準備を急ぐ中曾根に触れ、「堂々と王道を踏んで勇気をもつて私達は進んでいかなければならない」と豪語し、

このような自衛隊増強と結びついて、日米安保の強化、日米韓軍事同盟の強化が急速にすんでいる。八五年十二月、日米両軍部によつて「日米共同作戦計画（案）」が署名された。それは、七八年の「日米防衛協力の指針」にもとづいて、日米両軍の秘密軍事協議としてすすめられてきた「日本有事研究」と「極東有事研究」がついに、具体的な共同作

真正面から「1% 枠」撤廃をおこなうと宣言した。しかし、労働者人民の怒りの高まりの前に、九月六日中曾根は、① GNP 1% 枠ができるだけ尊重していく② 防衛庁の内部計画である「五九中期業務見積」を政府の新防衛五ヶ年計画に格上げ決定すると表明し、「1% 枠」閣議決定そのものの撤廃はいったん見送つた。だが、九月十八日に閣議決定された「中期防衛力整備計画」（八六年度～九〇〇年度）は、総額十八兆四千億円にのぼる巨額のものであった。それは今後五年間の GNP 見通しの 1% をこえる GNP 1% ～〇三八% にあたるばかりか、ここ数年間の軍事費支出をさらに上回る年平均七・九% 増の軍事費増大を必要とする実に許すまじき大軍拡計画である。

この新たな計画は、額の巨大さのみならずその内容においても危険きわまりないものである。中曾根は就任以来、日本列島不沈空母化、四海峡（宗谷・津軽・対馬西・対馬東）封鎖、日本からフィリピン・グアムにいたる西太平洋のシーレーン（航路帯）防衛を唱えつづけてきた。新計画では、「シーレーン防衛能力」をはじめてうちだし、F 15 戰闘機百八十七機導入・F 4 ファントム戦闘爆撃機の大量導入・空中給油機導入・三千二百 Km の探知能力をもつ O T H レーダーの導入などによつて広大な西太平洋上の制空権を握ることとしているのである。

日帝一中曾根政権の今秋から来春にかけた封鎖、日本からフィリピン・グアムにいたる西太平洋のシーレーン（航路帯）防衛を唱えつづけてきた。新計画では、「シーレーン防衛能力」をはじめてうちだし、F 15 戰闘機百八十七機導入・F 4 ファントム戦闘爆撃機の大量導入・空中給油機導入・三千二百 Km の探知能力をもつ O T H レーダーの導入などによつて広大な西太平洋上の制空権を握ることとしている。さらにシーレーン封鎖する P 3 C 対潜哨戒機百機体制（これは米軍が西太平洋に配備する P 3 C の三倍にのぼる）、新型対空ミサイルパトリオット導入、洋上の航空機やミサイルをコンピューターを使って自動的にうちおとす A E G I S （エイジス）艦の導入、西太平洋の広大な地域での日米共同作戦・自衛隊の展開を支える C · I （指揮・通信・統制・情報態勢）の通信衛星の軍事利用を含む抜本的強化などをうちだら狃うものとなつている。さらにシーレーン封鎖する P 3 C 対潜哨戒や四海峡封鎖に強力な能力を發揮する P 3 C 対潜哨戒機百機体制（これは米軍が西太平洋に配備する P 3 C の三倍にのぼる）、新型対空ミサイルパトリオット導入、洋上の航空機やミサイルをコンピューターを使って自動的にうちおとす A E G I S （エイジス）艦の導入、西太平洋の広大な地域での日米共同作戦・自衛隊の展開を支える C · I （指揮・通信・統制・情報態勢）の通信衛星の軍事利用を含む抜本的強化などをうちだら狃うものとなつている。まさにこの新計画が実現されると、日帝は米軍との共同作戦を前提にはして、韓国やフィリピンなどで日帝の権益がおびやかされるときには、いつでも自衛隊の海外派兵をおこなえる段階を迎えるであろう。それ

は、八五年度防衛白書が初めて「抑止力としての自衛隊」をうちだしたごとく、東アジア諸国を軍事的にも支配し、燃えあがる反帝民族解放闘争を日帝の軍事力をもつてたたきつぶさんとする反動的狙いに貫かれたものである。

戦計画にまで完成されたものである。これと並行して日米合同軍事演習が強化されつづけてきた。自衛隊は八〇年からリムパック（環太平洋五ヵ国合同軍事演習）に参加してきたが、リムパック84は兵員五万人が参加する西側最大規模の海上合同演習になるとともに実質的には日米二ヶ国合同演習といつてよいものであった。また毎年規模を拡大しているチームスピリット（米韓合同軍事演習）への実際上の参加と今秋から来春にかけてもくろまれている日・韓練習艦隊の相互訪問など日米韓の軍事的結合が飛躍的に強まってきた。

来春五月四日から六日にかけて東京でサミット（先進国首脳会談）が開催される。それは日帝にとって、この間の急速な侵略反革命戦争準備のうえに、米帝に次ぐ国際的な軍事同盟の飛躍的強化を実現するものとなるであろう。

中曾根政権のもとですすめられている侵略反革命戦争準備は、いよいよ予断を許さない段階にいたった。日帝の侵略戦争の矛先をむけられている東アジアをはじめとした全世界の労働者人民に対する責務にかけて、日帝の戦争準備とのたたかいで全力で決起しなければならない。

かつてない排外主義育成攻撃

日帝一中曾根政権による第二の攻撃の焦点は、天皇制（天皇制イデオロギー）を中心とした労働者人民の排外主義への組織化である。

中曾根は、去る八月十五日、内外からの強い反対の声をおしきって戦後はじめて首相として靖国神社公式参拝を強行した。

靖国神社は、一八七九年六月四日に東京九段にあった招魂神社を改称して創建された。

靖国神社は、数ある日本の神社の中できわめて特殊なものである。靖国神社に「神」として祭られているのは、明治維新前後の内乱から第二次大戦にいたる戦争での戦死者である。

靖国神社に神として合祀されるためのたびて祭られているのは、天皇のために「名誉の戦死」とつの条件は、天皇のために「名誉の戦死」をとげることであった。そして、何をもつて「名誉の戦死」と判断するかは、天皇が決定するものとされた。こうして靖国神社に合祀された戦死者の数は、二四六万余名にのぼっている。また、戦前は神社はすべて内務省の管轄下にあつたが、靖国神社だけは陸軍省・海軍省の管轄下におかれ、憲兵が守衛にあたり、宮司も陸軍大将がつとめるという、軍事施設ともいえるものであった。靖国神社が、労働者人民を侵略反革命戦争に動員していくためにはたした役割は実に絶大なものである。

戦前の日帝がひきおこした戦争は、ブルジョアジーの利益のために朝鮮・中国・東南アジアを支配下におかんとした侵略反革命戦争であり、アメリカとの戦争もまた東アジアをどちらが支配するのかをめぐる帝国主義間の強

戦計画にまで完成されたものである。これと並行して日米合同軍事演習が強化されつづけてきた。自衛隊は八〇年からリムパック（環太平洋五ヵ国合同軍事演習）に参加してきたが、リムパック84は兵員五万人が参加する西側最大規模の海上合同演習になるとともに実質的には日米二ヶ国合同演習といつてよいものであった。また毎年規模を拡大しているチームスピリット（米韓合同軍事演習）への実際上の参加と今秋から来春にかけてもくろまれている日・韓練習艦隊の相互訪問など日米韓の軍事的結合が飛躍的に強まってきた。

来春五月四日から六日にかけて東京でサミット（先進国首脳会談）が開催される。それは日帝にとって、この間の急速な侵略反革命戦争準備のうえに、米帝に次ぐ国際的な軍事同盟の飛躍的強化を実現するものとなるであろう。

中曾根政権のもとですすめられている侵略反革命戦争準備は、いよいよ予断を許さない段階にいたった。日帝の侵略戦争の矛先をむけられている東アジアをはじめとした全世界の労働者人民に対する責務にかけて、日帝の戦争準備とのたたかいで全力で決起しなければならない。

中曾根政権のもとですすめられている侵略反革命戦争準備は、いよいよ予断を許さない段階にいたった。日帝の侵略戦争の矛先をむけられている東アジアをはじめとした全世界の労働者人民に対する責務にかけて、日帝の戦争準備とのたたかいで全力で決起しなければならない。

ヨーロッパの利益のために他国の労働者を虐殺するため、労働者人民の死は、一片の正義もない無惨な労働者人民の死は、一片の正義もない無惨なものであった。日帝ブルジョアジーは、このように祭り、天皇が参拝することによって、侵略反革命戦争を聖戦として描きだし、労働者人民の無惨な死を天皇のための栄光ある名誉の戦死であるとし、ぼう大な労働者人民を侵略反革命戦争に動員しつづけたのである。

敗戦後、GHQの政教分離指令に基づいて、靖国神社は形のうえでは民間の一宗教法人となりた。しかし、再び侵略反革命戦争への労働者人民の動員を狙うブルジョアジーは、神社本店や遺族会を表に立てながら、一九五〇年代半ば以降、靖国神社国家護持——靖国神社を民間の宗教施設から国家によって管理・運営し、靖国神社に合祀されている「戦没者」を国家の手で祭ること——を執拗に実現しようとしてきた。しかし激しい反対運動がくり返されることによって、一九七五年日本遺族会と民主党遺族家族議員協議会は「靖国神社國家護持法案」の成立をいたんあきらめ、当時の首相三木が「私人」の資格というペテン的な装いをこらしつつ、現職首相としてはじめて靖国神社参拝をおこない、以降福田、大平、鈴木、中曾根の歴代首相が参拝をくり返してきた。

そして本年八月一五日、中曾根が初めて首相の資格で公式参拝についにふみ出したのである。中曾根は、それから先立つ七月二七日の自民党輕井沢セミナーで公式参拝をおこなう目的を次のようにあからさまに叫んだ。「國のために倒れた人に国民が感謝をささげるのか」と。靖国神社には、七八年秋、東条英機らA級戦争犯罪人一四人が合祀された。さらに神社発行の「靖国神社の概要」は、「大東亜戦争終結時に責任を負って自決された方々、いわゆる戦争犯罪人として連合国側によつて一方的に処刑された千余名の方々（当神社においては、これらの方々を『昭和受難者』と呼称しています）」を合祀していると記載している。靖国神社とは、戦前の日帝の侵略反革命戦争を当時と同じように大東亜戦争とよんで賛美し、A級戦犯をはじめとする千余人の戦犯を神として祭る神社なのだ。中曾根は靖国神社公式参拝をもつて、ふたたび「天皇のために」「國のために」侵略反革命戦争に喜んで死んでいく人間をつくろうとしているのである。そして、公式参拝を黙認するなら、次には靖国神社国家護持の攻撃がすぐにでもかけられてくるであろう。

さらに中曾根政権は、九月五日、文部省初等中等局長名で各都道府県政令都市の教育委員会に対して「入学式、卒業式で国旗の掲揚や国歌の斉唱を行なわない学校があるので、

適切なとりあつかいを徹底すること」という内容の文部省通知を送り、「日の丸」掲揚、「君が代」齊唱を実質上義務づける攻撃をするため、労働者人民の死は、一片の正義もない無惨な労働者人民の死は、一片の正義もない無惨なものであった。日帝ブルジョアジーは、このように祭り、天皇が参拝することによって、侵略反革命戦争を聖戦として描きだし、労働者人民の無惨な死を天皇のための栄光ある名誉の戦死であるとし、ぼう大な労働者人民を侵略反革命戦争に動員しつづけたのである。

敗戦後、GHQの政教分離指令に基づいて、靖国神社は形のうえでは民間の一宗教法人となりた。しかし、再び侵略反革命戦争への労働者人民の動員を狙うブルジョアジーは、神社本店や遺族会を表に立てながら、一九五〇年代半ば以降、靖国神社国家護持——靖国神社を民間の宗教施設から国家によって管理・運営し、靖国神社に合祀されている「戦没者」を国家の手で祭ること——を執拗に実現しようとしてきた。しかし激しい反対運動がくり返されることによって、一九七五年日本遺族会と民主党遺族家族議員協議会は「靖国神社國家護持法案」の成立をいたんあきらめ、当時の首相三木が「私人」の資格というペテン的な装いをこらしつつ、現職首相としてはじめて靖国神社参拝をおこない、以降福田、大平、鈴木、中曾根の歴代首相が参拝をくり返してきた。

そして本年八月一五日、中曾根が初めて首相の資格で公式参拝についにふみ出したのである。中曾根は、それから先立つ七月二七日の自民党輕井沢セミナーで公式参拝をおこなう目的を次のようにあからさまに叫んだ。「國のために倒れた人に国民が感謝をささげるのか」と。靖国神社には、七八年秋、東条英機らA級戦争犯罪人一四人が合祀された。さらに神社発行の「靖国神社の概要」は、「大東亜戦争終結時に責任を負って自決された方々、いわゆる戦争犯罪人として連合国側によつて一方的に処刑された千余名の方々（当神社においては、これらの方々を『昭和受難者』と呼称しています）」を合祀していると記載している。靖国神社とは、戦前の日帝の侵略反革命戦争を当時と同じように大東亜戦争とよんで賛美し、A級戦犯をはじめとする千余人の戦犯を神として祭る神社なのだ。中曾根は靖国神社公式参拝をもつて、ふたたび「天皇のために」「國のために」侵略反革命戦争に喜んで死んでいく人間をつくろうとしているのである。そして、公式参拝を黙認するなら、次には靖国神社国家護持の攻撃がすぐにでもかけられてくるであろう。

さらに中曾根政権は、九月五日、文部省初等中等局長名で各都道府県政令都市の教育委員会に対して「入学式、卒業式で国旗の掲揚や国歌の斉唱を行なわない学校があるので、

階級闘争の絶滅ねらう法制度再編

日帝一中曾根政権の第三の当面する攻撃の焦点は、戦争の遂行を可能とするものへと現国家機構を改造していくこと、法制度を再編していくことである。

七月二二日、行政改革審議会答申が中曾根に提出された。答申は、①これまでの国防会議を「安全保障会議」に格上げ改組し、構成員に国家公安委員長を加えたばかりか、統幕議長など自衛隊の直接指揮者をも加える道を開くことによって、首相のもとに戦争遂行のために軍事・外交・治安を統合的に指揮できる機構を整備すること。②内閣官房長官が主宰

し、情報調査室（現内閣調査室）、外務省情報調査局、防衛厅防衛局、警察厅警備局、安調査厅などを構成員とする合同情報会議を設置すること。すなわち、階級闘争への弾圧・スパイ・謀略などを専門的におこなつている国家機関を全面的に統括する機構の新設。それは、答申が「大停電・通信網の断絶などのような人為的事故、政治的テロ、ハイジャック事件、騒擾事件などの潜在的可能性が從来よりも高まつており、対処体制の整備は緊要の問題」と主張するよう将来の階級的活動期に備えて、階級闘争を圧殺していく機構の全面的強化をおこなおうとするものである。

これらの内容に示されるごとく、行政改革とは決して「財政再建・赤字べらし」のための行政機構の手直しなどではない。中曾根自身が、「私が担当する行政改革は救国政治を断行する呼び水であり、国の改革への血路である。」というように、侵略反革命戦争遂行にむけた一大国家機構改造、階級闘争解体攻撃なのである。

八五年六月六日、自民党は「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」（國家秘密法）を国会に上程し、次期国会での成立をもくろんでいる。国家秘密法は、有事立法制定策動とともに日帝の戦争準備のための法制度からの決定的攻撃なのである。

国家秘密法は、あたかも他国からの職業的スペイ活動を防ぐことに目的があるかのようにな装っているが、実際にはわが国の労働者人民から日帝の外交上・軍事上・治安上の戦争準備の実態をおおいからくし、階級闘争を破壊する目的に貫かれたものである。

国家秘密法が規定する「国家秘密」とは「防衛及び外交に関する別表に掲げる事項並びにこれら的事項に係わる文書、図画又は物件で我が国の防衛上秘匿することを要し、かつ公開になつていないもの」とされている。そして別表には、「防衛のための態勢等に関する事項」として「イ、防衛のための態勢、能力若しくは行動に関する構想、方針若しくは計画又はその実施の状況」をはじめとする六項目が、「自衛隊の任務の遂行に必要な装備品及び資材に関する事項」として二項目が、「外交に関する事項」として「イ、外交上の方針、外交交渉の内容」など四項目が指定されている。これは、軍事・外交上のほぼすべてが国家秘密の範囲に含まれているといえるものである。日帝一ブルジョアジーは、わが国の労働者人民に知らせたくないことをほぼ無制限に国家秘密と主張することができる。そして、「外国に通報する目的をもつて又は不正当な方法で国家秘密を探知し、又は収集した者で、その探知し、又は収集した秘密を外国に通報して、我が国の安全を著しく害する危険を生じさせたもの」を死刑又は無期懲役に処する（同法第四条）をはじめ、すさまじい重刑を課そうとするものである。さらに何が

むけた一大國家機構改造、階級闘争解体攻撃なのである。

党派闘争にうちかち

革命的陣形を！

そのときわれわれは、日本

「戦後政治の総決算」「新國家主義」をかかげた攻撃が、戦後階級闘争の構造そのものをブルジョアジーの側から再編していくものとして進められていることを鮮明にとらえ、これと真正面からたたかうなかでプロレタリア社会主義革命の準備を前進させていく必要がある。

新たな段階にふみこむ田舎の支配

日本は明治維新から高度経済成長期にかけて形成された戦後統治形態と階級闘争の構造は、ブルジョアジーにとって妥協の産物であった。すなわちそれは、①ブルジョアジー独裁支配であるにもかかわらず「平和国家の建設」「福祉社会の実現」「護憲」「議会制民主主義の擁護」などの政策上のたてまえを階級支配（階級協調）のために必要とし、②戦後階級闘争を、労働運動を含めて社共の影響下におくことで、ブルジョアジーの階級支配にとっての安全装置とせざるをえなかつたことである。社共は、平和と民主主義の擁護などブルジョアジーに階級協調政策を要求はしたが、ブルジョアジー独裁支配そのものの打倒

——プロレタリア社会主義革命のためにはいささかもたたかわないことでこの安全装置としての役割をはたしたのである。

この間の次のような動向にそれはあまりにも明らかとなつていて。第一に、中曾根政権は、自ら戦後民主主義の枠をふみこえると宣

「不当な方法」なのかは権力が自由に決定で

である。

いよいよ天皇の元首化、憲法九条の改悪などを中心とした改憲攻撃が本格的に打ちおろされる段階が訪れるであろう。「いよいよ時の潮流は満ちてまいりました。まず行革を断行しよう。失敗したら教育改革もできなくなる。防衛の問題もだめになります。いわんや憲法を作る力はダメになつてしまふ。行革で大躍進

言し、國家秘密法制定、有事立法、改憲、靖國神社公式参拝などをおしすすめしてきた。そしてこれらの多くは、生長の家－反憲学連や国際勝共連合などファシズム運動のかつてない活発な動きと結合して進行している。

そして第二に、戦後労働運動の帝国主義的再編である。同盟－JJC主導によって形成された全民労協は、いよいよ八〇年代末には連合体に移行し、戦後労働運動を代表してきた。総評の最後的解体を前提にした一大右翼ナショナルセンターを結成する展望をうちだした。膨大な合理化－首切り攻撃をともなって進められている国鉄分割・民営化は、総評労働運動の背骨であった官公労－国鉄解体を狙うものである。この帝国主義的労戦統一は、同盟－JJCや総評指導部によつて進められてはいるが、日帝ブルジョアジーがこれらの代理人を通して、労働者と労働運動そのものを直接的に支配しようとする攻撃なのである。

日帝は、こうしていま戦後民主主義の外皮を投げ捨ててむきだしの暴力支配にむかおうとしている。そして、プロレタリアートとの階級闘争を社共－総評の手からとりかえしみずから直接にプロレタリア人民を掌握し、支配しようとしているのである。それは階級闘争そのもの、階級闘争の萌芽にいたるまでのいっさいを圧殺しようとする攻撃となつていている。そして、プロレタリアートとともに、三里塚闘争をはじめとして戦闘的にたたかわれてきた反政府闘争を文字通り暴力的に破壊しつくす攻撃としてうちおろされている。

この間の天皇制・天皇制イデオロギー攻撃の全面化は、侵略反革命戦争準備の本格化のみならず、このような階級支配の新しい段階のためにこそブルジョアジーは不可避に必要としているのである。すなわち、ブルジョアジーの利益のための戦争をあたかも階級的利害をこえた民族的利益のためのものであるかのように偽つて階級闘争の全面的な圧殺を正当化するため、ブルジョアジーのむきだしの独裁支配を偽つて正当化するため（天皇ヒロヒト死亡時を利用した戒厳令の準備を見よ！）、総じてブルジョアジーとプロレタリアートの階級対立をこえた民族的国家的利益があるかのように偽つて階級闘争へ排外主義的に組織するために、ブルジョアジーは戦争とファシズム準備の支柱として天皇制・天皇制イデオロギー攻撃を急速に強化しているのである。

社共は、日帝の戦争とファシズム準備に対する広範なプロレタリア人民の憤激を、ブルジョアジー自身がいま投げ捨てようとしている「戦後平和と民主主義を守れ」の枠内に封じこめ、いささかも日本資本主義（帝国主義）への真正面からの批判とプロレタリア社会主義革命にむけようとはしない。それは日本階級闘争にとり返しのつかない敗北を強制するものである。

「戦後民主主義防衛」は敗北の道

ていかなければならぬ。
そして第二に、日帝――

「戦後民主主義防衛」は敗北の道

そして第二に、日帝一中曾根政権の戦争と
ファシズム準備に対する広範なプロレタリア
人民の憤激を戦後平和と民主主義を守れとい
う枠にとじこめるのではなく、日本資本主義
(帝国主義)への批判とプロレタリア社会主
義革命(武装蜂起—プロレタリア独裁権力樹
立)への結集にまで発展させ続けていくたた
かいをめぐって組織されねばならない。すな
わち樹立すべき権力をめぐる社共との党派闘
争にできるだけ多くのプロレタリア人民をひ
き入れていくことである。われわれはこの数
年間、大衆的プロレタリア政治統一戦線の形
成をよびかけてきたが、それはより多数のプロ
レタリアートを最初の政治決起に組織する
ために必要なだけではなく、できるだけ多く
の先進的プロレタリアートを社共との樹立す
べき権力をめぐる分岐と党派闘争に結集させ
ていくためにまた必要なのである。

そして第三に、これらといっさいをプロレ
タリア前衛党と結合した革命的陣形の建設と
しておしすすめることをめぐつてである。階
級的労働運動の陣形とプロレタリア政治闘争
の陣形の中に党と結合した革命の伝導路 \parallel 労
政が配置されたプロレタリアートの革命的陣
形を全国主要都市に建設していくことが、プロ
レタリアートを赤軍とソビエトに組織し、武
装蜂起とプロレタリア独裁権力樹立を必ずや
実現する。

階級闘争の爆発と革命的陣形を

ところが、社共との党派闘争が根本的に強化されていかねばならないそのときに、新左翼運動の中から社共に路線的実践的に屈服していくこうとする傾向が強まっている。

第四インターを初めとする右翼日和見主義諸党派は、この数年間市民運動の中に大衆の基盤を求める、俗流市民主義者がふりまく「安保から離脱した非同盟・中立の日本を」などの一あどけない願望に拝跪しつつ市民運動の中で左派の位置を占めることに腐心してきた。そして、この目的をもって三里塚闘争を市民運動の中にもちこもうとしてきた。それは社共との全面的党派闘争をもつて社共からプロレタリアートを奪いかえしていくことをあらかじめ放棄しているに等しいのであり、つま

日本帝一中曾根政権の戦争とファシズム準備に対する広範なプロレタリア人民の憤激をプロレタリア社会主義革命の準備へと発展させていくために社共への容赦ない批判と党派闘争が階級闘争のあらゆる領域でいまこそ強化されねばならない。

それは第一に、崩壊し帝国主義的労戦統一に合流していく総評に対しいささかの幻想を抱くこともなく、階級的労働運動の陣形を全国に建設していくたたかいをめぐって組織されねばならない。ブルジョアジーがプロレタリアートを直接的に掌握し、階級闘争の萌芽までもたたきぶそうとするのに対して、われわれはプロレタリア社会主義革命にまで発展する階級闘争の基礎陣形を独自に構築し

「主主義擁護」を共通項にして社会党—総評との結びつきを強め、他方で三里塚闘争における「革命的武装闘争、大衆的武装闘争」をもつて内戦一蜂起を切りひらくと主張してきた。中核派もまた局面的には戦闘的にたたかおうとも、社共にかわる前衛党として階級闘争全体を規定しようになるとは考えない。彼らはプロレタリア階級に依拠することを知らず、社共との樹立すべき権力をめぐる党派闘争を組織することができず、プロレタリア階級を赤軍とソビエトに組織していくという根本的な革命の準備を否定するからである。それは社共に對して、帝国主義のうちだす政策と戦闘的にたたかおうとしないというあまりにも一面的な批判しかできない弱点と一体である。中核派は、つまるところ日帝の戦争とファシズム準備に対するプロレタリア人民の憤激をプロレタリア社会主義革命の準備と結びつけていくことができず、自らその憤激を体現する戦闘団としてたたかうという位置にとどまらざるをえないのである。

すべてのたたかう労働者、学生諸君！

日帝の戦争とファシズム準備の嵐の中で、社共はなすすべなく屈服し、右翼日和見主義、急進民主主義党派も社共の補完物や反対派の枠を脱することはできない。すべてのたたかう諸君は、われわれとともに社共との全面的な党派闘争を強化し、プロレタリアートの革命的陣形建設を全力で前進させていこうではないか。そのためのプロレタリア政治闘争の任務を次のように提起する。

その第一は、プロレタリア政治闘争の最も基礎的な陣形である大衆的プロレタリア政治統一戦線を全国主要都市に建設していく事業をひき続き前進させていくことである。総評の崩壊が進行し、社共の政治闘争が後退に後退を重ねるなかで、プロレタリアートの階級形成のための戦場を独自につくりだしていく努力はますます重大なものになっている。軍事費G.N.P.一%突破や靖国神社公式参拝などをめぐって高まるプロレタリア人民の戦争とファシズム準備に対する憤激を、個々バラバラのものへと霧散させるのではなく、このプロレタリア政治闘争の基礎的陣形の建設へと結実させていかねばならない。それは党にとって、より広範なプロレタリアートを最初の政治決起にひき入れていくために必要であるとともに、統一戦線のスローガンと統一戦線戦術の枠をこえて先進的プロレタリアートを武装蜂起とプロレタリア独裁に結集させていくための党と先進的プロレタリアートからの独自の働きかけをより大規模に組織していくためにこそ必要なのである。

われわれはかかる見地から、京都における京都労働者実行委のたたかいを支持し、このたたかいを全国に波及させるべく努力してきた。京労実は、一月七日に八三年秋のレーガン来日・訪韓阻止闘争以来五度目の闘争を

「一一・七防衛費一%突破、靖国公式参拝を許すな！京都労働者反戦集会」として予定している。われわれは、一一・七京労実闘争の成功のために努力するとともに、神戸、東京における大衆的プロレタリア政治統一戦線建設のたたかいを前進させる。

その第二は、この大衆的プロレタリア政治闘争の中から、わが国におけるプロレタリア社会主義革命（武装蜂起—プロ独）のためにたたかおうとする先進的プロレタリアートを大規模に生みだしていくための党と労政の独自の全面的政治暴露と宣伝・煽動を全効率で組織しなければならない。日帝—中曾根の戦争とファシズム準備に対するプロレタリア人民の広範な憤激を、戦後の和平と民主主義を守れという枠に封じこめてはならない。それは階級闘争をとりかえのつかない敗北に導くことであり、社共とそしていかに戦闘的にたたかおうとも右翼日和見主義、急進民主主義党派がおちいっていかざるをえない誤りである。われわれは、このたたかいを通して、プロレタリア人民を資本主義・帝国主義への批判にめざめさせ、日帝の戦争とファシズム準備と最後までたたかうためには武装蜂起とプロレタリア独裁を実現しなければならないこと、そしてそれはプロレタリア階級のみが最後までおしすすめることができる歴史的任务であることを確信させていかねばならない。

その第三は、プロレタリアートを資本主義・帝国主義への批判とプロレタリアートの歴史的任務に結集させていくために、われわれは他国のプロレタリア社会主義革命に対する国際主義的連帯闘争を、日帝の戦争とファシズム準備とのたたかいにたちあがるプロレタリア人民のなかから断固として組織し続けねばならない。

今春季われわれが全力をあげて組織したニカラグア革命連帶闘争はその最初のたたかいであった。われわれがニカラグア革命連帶闘争にとりくんだのは、米帝のニカラグア軍事侵攻がさし迫っており、全世界からの連帯と援助が要請されているという政治過程上の理由からだけではなかった。他国の中の革命への連帯をプロレタリア階級の深部にまでもちこむことによって、階級としての成長を実現することを目的にしたものであった。そのためには階級闘争であることを明らかにし、このプロレタリアートが革命を防衛し発展させることができる

ことができる。われわれは、(1)ニカラグア革命からプロレタリアートのこれとの闘争であること、帝国主義と国内ブルジョアジーはこの革命の前進に敵対しているのであってアートの階級闘争への国際連帯をよびかけたのである。(2)そして、日本プロレタリアート



反トマ闘争に決起した京労実(84年6月)

の階級形成との結合を、ニカラグアプロレタリアートとわが国のプロレタリアートが国はちがついても同じ階級であり、ニカラグアプロレタリアートとその革命の敵がわが国プロレタリアートのたたかうべき敵と同じ階級であることを明らかにすることを通して、ニカラグア革命に学ぶなかからわが国プロレタリアートを資本主義・帝国主義への批判とプロレタリアートの歴史的任務への自覚に導いてこうとしたのである。

われわれは、このたたかいを継承し、わが国のプロレタリアートを革命的階級へと形成し続けていくために、ニカラグア革命をはじめとする全世界各国におけるプロレタリア社会主義革命への国際主義的連帯闘争をさらに大規模かつ継続的に組織していかねばならない。それは必ずや未だ戦後平和と民主主義の擁護の枠内にある多くのプロレタリアートをめどする全世界各国におけるプロレタリアートを大きく流動させ、わが国の中の階級闘争の将来の発展方向とそこではたすべき階級としての任務を確信させていくものとなるであろう。

その第四は、かかるプロレタリア政治闘争の組織化と並行して緊迫する三里塚二期決戦に決起し、三里塚闘争をプロレタリア社会主義革命にむけた階級闘争の一翼に組織することである。戦争とファシズム準備を急速に日帝にとって三里塚闘争を破壊しつくし、二期工事を完成化することは絶対に避けて通れないものである。反対同盟を懷柔し、条件派へと変質させようとする成田用水攻撃は、二期工事そのものといえる攻撃である。一〇月末から一月にもかけられている辺田成田用水着工を粉碎し、一一・一〇三里塚現地闘争を三里塚闘争の階級的発展をかけてたたかわねばならない。

その第五は、このようなプロレタリア政治闘争のいっさいの成果をプロレタリア階級人民の奥深くまでうちこまれた中央集権非合法党とこの党に固く結合した武装せる革命の伝導路＝労政の建設へと結実させることである。わが国のプロレタリアートを赤軍とソビエトに組織し、武装蜂起とプロレタリア独裁権力を樹立することは、一時代をかけたたたかいである。だからこそ、われわれは現実のプロレタリアートを革命的階級に形成するためのいっさいのたたかいの成果を、たとえ一〇年かかるうとも二〇年かかるうとも、現実のプロレタリアートを変革し、革命的階級へと形

成していく主体の建設＝労政の建設に目的づけていかねばならない。

すべてのたたかう労働者・学生諸君！

日帝一中曾根の戦争とファシズム準備に腹

わたの煮えくりかえるような怒りをもってた
たかおうとする労働者・学生諸君／全国労働者政治委員会に結集せよ！労政を指導し、社共にかわる眞のプロレタリア前衛党としてわ

が国のプロレタリア社会主義革命を最後まで
領導する中央集権非合法党＝共産主義者同盟
全国委員会に結集し、自らの生涯をプロレタ
リア階級解放の歴史的事業に結集せしめよ！

たたかう労働者・学生のみなさん
反対同盟は一一・一〇現地総決起集会の開催を決定し、結集を呼びかけている。この呼びかけにこたえ、全国から結集し、二期阻止・軍事空港粉碎の大高揚をかちとろうではないか。

進む二期準備阻止せよ

八月二二日、運輸省は来年度予算の概算要求の中で成田空港関係の建設事業費として二九二億円を計上した。これは、二期用地内駐車場とそれへの連絡道、第一旅客ターミナルビルの改修、燃料タンク増設、代替地の整備促進、防音工事等の環境対策、外周道路の整備とフェンス強化を目的にしている。さらに、同じ日、運輸省は第五次空港整備計画を発表し、九〇年度までに四二一〇億円を投入して空港を完成させる計画を打ちだした。

この攻撃の特徴の第一は、直接には二期予算という形では出さず、一期、二期の区別をなくすことによって「なしくずし二期着工」の形で予算要求を行なっている点である。表現のうえでは「二期」をかくして、実際には二期を大胆に推進するというこれまで以上に悪質な手口を使っているのである。特徴の第二は、同時に発表した五空整の中で九〇年を目途に二期の完成を打ちだし、二期工事の計画をより具体化したことである。そして、羽田拡張、新関西とともに、三大プロジェクトの中心に位置づけ、まさしく日本帝国主義の国家的事業として位置づけていることである。

このような五空整一八六年度予算要求により、二期をめぐる攻防

労戦統一に反撃を

階級的労働運動の全国陣形建設急げ！

十一月十五日に予定される第四回総会を控え、全民労協は一八七年十一月に全民労協の連合体

移行をおこなう②八九年までに官公労を含む労働界全体の統一をめざす――などを確認した。

一時期ペース・ダウンしていた帝国主義的労戦統一の動きは、全民労協の連合体への移行を焦点にして再び速度を早めてきている。

辺田・中郷への用水着工阻止せよ

11・10三里塚現地へ！



は正念場を迎えている。このもとで一ヶ月上旬にも成田用水辺田・中郷着工がもくろまれており、また八五年度予算にもとづく木の根一横堀間の警備道路の今秋着工が策動されている。そして、今秋にも東峰十字路公判の判決が予想されており、反対同盟の中心的存在である青行隊を大量投獄せんとしている。さらには、二期を先どりして、B・C滑走路飛行コース下の住宅への防音工事が行なわれようとしており、反対同盟の孤立化、解体をねらっているのである。

このような激化する二期攻撃に対し、反対同盟は、七・一四、八・一八、九・二九、一〇・二七と連月行動を行ない、菱田でのデモをはじめ、自主耕作作業本の根やグラ建設などが行なわれた。また、九日一五日には東峰被告団・家族会とともに東京で集会を行ない、九・一六闘争の正当性を訴えた。

この春から夏にかけての現地のたたかいをふまえて、すべての三里塚闘争をたたかう労働者人民に問われていることは、三里塚闘争を、農地と農業の防衛の問題にとどめることなく、軍事空港粉碎、労農連帯、実力闘争のストーガンを結合環として日本帝国主義の戦争・ファシズム準備と対決する全人類的政治闘争として发展させる

ことである。そして、日本帝国主義を武装蜂起で打倒し、プロレタリア独裁権力を樹立して社会主義を実現をめざすプロレタリア階級闘争の一翼へと三里塚闘争の

全国の労働者・学生のみなさんノ日本帝国主義は、「戦後政治の総決算」を掲げて、防衛費GNP比一九六六突破や、靖国神社公式参拝など、次々と戦争・ファシズム準備を推進しており、その一環として三里塚軍事空港建設を進めている。安保条約において、緊急時の軍用機の優先使用が明記されており、また有事立法策動は自衛隊の成田使用を全面化させるものである。

このような軍事空港建設を阻止すべく一一・一〇現地総決起集会に結集しよう。

このため、反対同盟内部のプロレタリア的指導部建設と結合し飛躍をかちとることである。

このために、反対同盟内部のプロレタリア的指導部建設と結合し

発端は本年五月に、全民労協の連合組織構想検討委員会が「中間報告」を発表したことにはじまる。「中間報告」はつくれべき連合体の性格を「民間部門のナショナルセンター」と規定して波紋を投げかけた。八月

「連合組織は国際自由労連に
表された。

の組織名称を全日本民間労働組
合連合会（全民労連）とし、各
都道府県に地域連合会を設置す
るなどの規約案と活動指針が発

加盟する」（中間報告）という主張を含め、これらの動きのキヤスティング・ボードはほぼ一元的に同盟によって握られている。同盟は全民労協が連合体に移行した時点で組織を解散する用意があるという態度をうちだし、総評もこれにならうべきだしと主張はじめた。事態は同盟の一方的ペースで進んでいる。

評指導部は、①「中間報告」に
盛りこまれた連合体＝民間部門
のナショナルセンター規定にた

アーチスト・学生運動を紹介し、革命的學生運動の火種を！

明治大学駿河台校舎

同志社大学 全学戦線

全ての学友諸君！きだる一月一八日、日大全文理連絡会議（銀ヘル）呼びかけの全国学生共同闘争が行われる。いまから五年前の同じ日に、ファシスト反憲学連は「脅かされる北の守り」上映をテコにして、日大文理に登場した。そして、たたかう学友の抗議行動をおびきだし、鉄パイプ・日本刀・青龍刀を手にして武装襲撃を狙ってきたのだ。彼ら右翼ファシス

日大文理での一点突破が、全国へと波及し全面展開されたとき、全國の戦後思想の拠点たる護憲大学が、音をたてて崩れ落ち、「戦後」という時代の終焉を迎える……そのときこそわれわれの目指す憲法打倒の大目標が現実のものとなる」と、はつきりした政治目的と全国戦略を宣言している。

それ以来ファシスト反憲学連と
日大銀ヘルを先頭とする戦闘的学
友との流血を辞さない死闘が、全
国学友の将来を賭してくり抜げら
れてきたのである。日大銀ヘルの
学友は、反憲学連の武装登場を日

八〇年一一・一八以来、日大銀
ヘルを先頭とする対ファシスト戦
は、反憲学連の武装制圧を打ち碎
く実力入構闘争、自主新歎を皮切
りに、全国学生共同闘争を呼びか
けて対ファシスト戦を学生の第一
級の課題へおしあげた。以降銀ヘ
ルは、流血・刑事弾圧を引き受け
つつ、対ファシスト戦・日大闘争
を革命的学生運動の戦略展望とし
て、全国の戦闘的学友に提起し、
ファシズム学生運動への反撃戦を

腐敗した密集が、四・八武道館戦闘を境に音を立てて後退している。いまこそ反革命ファシストの息の根をとことん止めるべく、一層の対ファンスト撃滅一掃戦を革命的學生運動創建と結びつけて、進撃せよ。その成果を持って、來たる一月一八日、全国学生共同闘争へ全力で決起しよう。

大での偶然事でなく、八〇年代以降のわが国学生運動を決するファシズム学生運動と革命的学生運動との歴史的攻防に他ならないと訴えている。その通りだ。日大を焦点とするファシズム学生運動の全般的捨頭は、もはや誰の目にも明らかである。そうであるからこそ全てのたたかう学友は、日大を天王山とする対ファシスト戦に勝利しきらなければならぬし、日大闘争に連帯しなければならぬ。

切りひらいてきたのだ。全てのた
かう学友諸君！かかる反撃戦が
全国の学友に定着し始めて五年後
の本年四月八日、日大統一入学式
にて銀ヘル・同大全学戦線を始め
とする隊列は、権力数百名が戒厳
下に置く日大武道館でついに反憲
学連を粉碎・敗走させ、一〇名の
刑事弾圧を引き受けて対ファシスト
戦の歴史的攻勢に踏みだしたので
ある。

烽火

資本主義的競争へ一層せき立てるにいたっている。かかる中でいだく将来に対する絶望感・疎外感・不安感を下層プロレタリアート・被抑圧民族・被差別大衆への憎悪へ煽動し、天皇制・民族排外・差別排外主義を確信とする学生と学生運動を建設すること、ここに彼ら反憲学連・勝共一原理のねらいがある。ファンズム学生運動の抬頭こそ、日帝ブルジョアジーが危機の時代に打ちおろした学生支配の核心に天皇制・差別排外主義を中心とし、学生をブルジョアジーの階級的利害へと組織しきるための民間反革命突撃隊の動向なのだ。

学友諸君！かかる反憲学連・勝共一原理は、全国の大学で戦闘的學生運動を壊滅させ、ファシズム全學連建設の戰略を定め、その政治的圧力をもって、日帝の資本主義的危機を最後的に突破する戰争の發動を一举に下さんとしているのだ。

したがつて、先進的学友の第一級の任務たる対ファシスト戰は、日帝ブルジョアジーの戰争準備との真向からの對決と結びつけ、學生と學生運動をプロレタリアートの階級的利害へ組織し抜くことが核心的問題である。すなわち、ファシズム学生運動とのたたかいを武装蜂起—プロレタリア独裁の社

会主義革命に向けて学生を組織すること、かかるたたかいを担う革命的学生運動の創出が現在求められている。

学生自治の防衛でのみたたかりに立脚し切れない日和見主義、あるいは、プロレタリアートの前衛党建設と結びつかないたたかいは、学生層をブルジョアジーの側へ階級形成せんとするファンズム、学生運動との一時代を画するたたかいで勝利し切れない。

全てのたたかう学友諸君！反憲学連・勝共ー原理を踏みしだき、プロレタリア階級の側へ学生を組織し抜け！武装蜂起ープロレタリ

ア独裁権力樹立のプロレタリア社会主義革命へ向けて、自己と学生大衆を組織せよ！

かかるたたかいをこそ、反党派主義・日和見主義との党派闘争を通じて、断固たたかいところではないか。同大全学戦線とその同志友人は、全力で、対ファシスト戦勝利・革命的学生運動建設に向け、一一・一八全国学生共同闘争に決起する。

全ての学友諸君、日大・全国のファシズム学生運動打倒闘争を押し進め、プロレタリア社会主義革命の一翼を担う革命的学生運動を建設しよう！

「日の丸・君が代」攻撃粉碎せよ 七八年天皇来沖に向けた

油 繩

九月五日 文部省は一国旗の掲揚や国歌の斉唱をおこなわない学校があるので、その適切な取りあつかいについて徹底すること」という「日の丸」「君が代」を強制する通知を全国の教育長あてに出した。これは沖縄において特に重大な問題がある。

この通知は、「日本国民としての自覚と国を愛する心情を育てる」

したした臨教審第一次答申や、靖国神社国家護持へ向けた中曾根の公式参拝の強行と軌を一にした攻撃であり、戦争準備にむけた中曾根の「戦後政治の総決算」の一環に他ならないものである。

この通知理由として文部省は、「調査で地域的なアンバランスが目だったため」と説明している。これは「日の丸」「君が代」に対

いることは明らかである。実際、沖縄の中高九四%が「日の丸」を拒否し、「君が代」にいたっては実に全ての学校がこれを拒否しているのである。

は、「日の丸」を事前に掲揚しておき、また怒号に書きかけされながらも「君が代」をテープで流すという強行な手段で「日の丸」「君が代」を持ちこんだのである。そして沖縄労働者人民の断固たる拒否に対して九州体連は、「体連規約を受け入れられないのなら、沖縄では一切の公式競技大会を開催させない」と露骨な恫喝をかけて

「日の丸・君が代」促進決議に反対してすわりこむ労働者(10月16日沖縄県議会前)

10・16 県議会で促進 決議強行採決

**県議会で促進
決議強行採決**

文部省通知を受けて九月三〇日には、那覇市議会が「日の丸」「君が代」促進決議を强行採決し、さらに四市町村が同様に決議をなす

た。そして一〇月一六日には「日の丸」「君が代」強行採決を許すまいと多数の労組員が県議会前に結集したが、県議会においても右翼と機動隊に守られて強行採決を行なつた。